

オバマ演説、米国から思う 「人道的」「具体性ない」…

高木智子 松崎敏朗 大隈崇 2016年5月28日18時02分

シェア

69

ツイート

list

ブックマーク

2

メール

印刷



オバマ米大統領の歴史的な訪問から一夜明け、原爆ドーム前を流れる元安川の川岸では、証言者の言葉に耳を傾けて戦争や平和について学ぶ子どもたちの姿が見られた＝28日午前10時49分、広島市中区、青山芳久撮影



美甘章子さん、父・進示さん＝広島市東区

広島は「爆心地」に立ち、「核なき世界」の実現を宣言したオバマ米大統領の「ヒロシマ演説」。米国に住む被爆者や平和活動に取り組む人たちは好意的に受け止め、課題も指摘した。日本に住む他の核保有国の市民からも、共感や核廃絶への期待の声があがった。

特集：オバマ米大統領広島へ

【動く年表】核なき世界 模索の8年

【動くグラフ】世界の核兵器、これだけある

■ 被爆2世 「世界にインパクト」

米西海岸サンディエゴ在住の被爆2世で臨床心理医の美甘章子（みかもあきこ）さん（54）。オバマ大統領の訪問を広島市に住む父のそばで見届けようと一時帰国した。オバマ氏が原爆投下について「残酷な終結」と言及した演説を評価。「国境を超えた人道的な内容で、世界にインパクトを与えてくれた」と歓迎した。

父の進示（しんじ）さん（90）＝広島市東区＝は爆心地から1・2キロで被爆。今も体に傷が残る。「アメリカが憎いと恨みつらみで生きていくことも苦しい。一步一步、前に進みたかった」